

# 2020年度事業報告書

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

## 特定非営利活動法人フードバンク関西

フードバンク関西は、2021年3月31日をもって第18期会計年度を終了いたしました。ご支援賜りました皆さまに心より感謝いたしまして、以下、事業報告をいたします。

### I 事業活動の概況

コロナ禍で「余っているのに足りていない」という食をめぐる矛盾が顕在化し、それをつなぐフードバンクに対する認知と期待が高まった年になりました。

フードバンク関西においても、消費機会の喪失を受け、企業からの食品提供数が増大しました。一方で学校が一斉休校、緊急事態宣言が発令され、失業、収入減により困窮する一般世帯が急増する状況となりました。そのような非常事態においてフードバンクの役割を果たすべく、困窮する個人世帯への緊急食支援プロジェクトを実施しました。また、コロナによりいっそう生活が苦しいひとり親世帯、子育て世帯への食品パック宅配プロジェクトにも着手しました。企業、個人の方々からも協力を得て、困難な状況にある親子に食べる喜びと、誰かが支えてくれているということを伝えることができたことは大きな成果でした。

1回目の緊急事態宣言発令中には、一部の食品の引き取りと福祉団体へのデリバリーを休止した時期もありましたが、ボランティア一人一人が感染予防に努めながら活動を継続し、必要などころに食べ物を届けることができました。

### II 本年度の成果

#### (1) 受益者の拡大

困窮する個人世帯からの申し込みを受け付け、直接食品パックを宅配で送る事業をはじめての試みとして計3回実施しました。3回で1991世帯、6597人に食品を届けることができました。フードバンクの存在意義を発揮することができ、一時的にせよ多くの方の食べ物が不足する状態を解消することができました。また、誰かに支えられていると感じることにより前向きな気持ちになっていたことも大きな喜びであり、ボランティアの励みにもなりました。

#### (2) 企業、行政、関連団体との連携強化

3回の食品パックプロジェクトを実施するにあたり、食品関連企業などに協力を依頼し、たくさんの企業、個人の方から食品を提供していただくことができました。困っている人を何とか助けたいという皆さんの思いをつなぐことができ、一緒になって困窮者支援に取り組んでいくという手応えを感じました。

今年度、神戸市社会福祉協議会と食のセーフティーネット事業での事業協定を結ぶことができました。これにより、神戸市9区の社会福祉協議会と連携がとれることになりました。また、食品パックプロジェクトでは、対象者への告知に行政、社協のご協力を得ることができ、本当に食支援を必要とする人たちにつながることができました。

運営資金面では、神戸市のガバメントクラウドファンディングによる寄付金調達の機会を得て、目

標額達成に至りました。さらに、神戸市フードバンク活動団体に認定していただき、今年度より創設された神戸市フードバンク活動団体助成の受領が決定いたしました。単年ではなく継続して運営費を助成していただけるようになったことは大きな成果です。

コロナ禍緊急食支援事業では、初めての試みとして、宅配料調達のためのクラウドファンディングを立ち上げました。これには、関連企業のみなさんや受取り団体のみなさん、多くの当法人の支援者にご協力いただきました。

このように、各方面との連携の成果を実感できる年度となりました。

### (3) ホームページのリニューアル

これまでの当法人のホームページは食品ロス啓発に重きを置いたものになっていましたが、検索する人の目的に応じた情報にたどり着きやすいように一新しました。私たちの活動理念をより明確に示し、フードバンク関西につながる入口として運用していきます。

### (4) 食品衛生管理適合認定

2021年1月25日に日本フードバンク連盟の衛生管理監査を受けました。その結果、日本フードバンク連盟の衛生管理基準を満たしていると認められ認定書を受領いたしました。当法人の日ごろの適切な食品管理が認められましたが、それを継続するとともにさらに改善をし、フードバンク事業に信頼を得るよう努めてまいります。

## III 2020年度の各事業の報告

当法人は、企業や個人から、「商品としての価値はありながら流通から外された、あるいは家庭で使いきれないが、食べ物としては安全で美味しく全く問題のない食品」を回収し、それらの食品を3つのプロジェクト、「福祉団体への定期的分配」、「食のセーフティーネット」、「子ども元気ネットワーク」を通じて、支援を必要とする人達への無償分配を実施しています。2020年度はこれに加えて個人世帯への直接食支援事業を実施いたしました。食品の回収と、それら集めた食品の活用について下記にまとめて報告します。

### (1) 食品の回収

#### ①取扱食品量

本年度の全取扱量は251トとなり、例年の200トン強から増大しました。新たに合意書、確認書を交わした企業・法人数は56社、食品を提供いただいた企業・法人数は183団体となり、前年を大きく上回りました。

その要因として下記のことがあげられます。

- ①コロナにより消費が縮小し、行き場のなくなった食品があふれたこと
- ②企業の食品ロス削減対策推進
- ③災害備蓄品の入れ替え時期との重なり
- ④困窮する個人への食支援に賛同する企業・個人からの食品寄贈の増加

2020年度取扱食品の提供者数、引き取り量、全体への割合は下記の表の通りです。

入庫明細	企業・団体数	引取重量 kg	全体に対する%
食品関連企業・法人	148 (101 食品企業)	177,640	70.7
災害備蓄食品旧品	35	12,750	5.1
フードドライブ	34	13,055	5.2
他のフードバンク	4	25,670	10.2
個人	587	21,978	8.8
		251,093	100.0

## ②取扱食品の種類

3月の小中高等学校一斉休校にともない、使い道のなくなった給食の食材を引き取るようになったことから、冷凍肉、魚など良質のたんぱく源が入手できました。ただ、従来はこれらの食材は、ホームレスの炊き出しや子ども食堂など、調理をして要支援者に提供するところには重宝されましたが、コロナにより炊き出しが休止され、子ども食堂も会食形式での開催ができず、日持ちのする常温品を持ち帰らせる形での開催が多くなり、需給のミスマッチが起っています。

毎年、お米の確保が課題でしたが、今年度は個人からの寄付が増大しました。5月～6月の緊急食支援の際にはお米を購入しましたが、12月、3月の食品パックプロジェクトには、ご寄付いただいたお米を入れて各世帯に送ることができました。

お米に関しては、個人支援には需要が高く欠かせないものなので、今後、安定的な確保に向けて農家や農業組合などへの働きかけは不可欠です。

食品の種類と取扱量の割合 ( ) は前年度の割合

	重量kg	全体への割合%	備考
たんぱく質食品	10,251	4.1 (4.5)	チーズ、卵、肉、魚冷凍加工品
生鮮野菜	36,859	14.7 (11.2)	トマト、播磨復帰センター、コストコ
米	27,334	10.9 (11.1)	白米、玄米、もち米 (α米含めず)
パン	37,995	15.1 (19.3)	コストコ
菓子	17,920	7.1 (3.1)	とよす、モロゾフ、トーラクその他
飲料	19,147	7.6 (1.6)	ペット飲料、保存水、ジュース類
その他の食品	101,587	40.5 (49.1)	分類できない加工食品

## ③フードドライブ

量販店レジ横にボックスを設置して、毎月期間を決めて実施されるフードドライブでの回収食品を受け取っています。コープこうべでは、西宮市内等の店舗で常設しているところもあり、また、年2回全店舗で開催しています。年1回、株式会社カーブスが実施しているフードドライブでも4店舗分の回収食品を受け取りました。フードドライブが市民に浸透していくにつれて、提供される食品も「家庭で要らないもの」ではなく、缶詰やレトルト食品といった要支援者にとって使いやすい食品が増えてきています。これらは、当法人の困窮者への緊急食支援事業や母子世帯への食品の宅配（子ども元気ネットワーク）事業などで活用する食品の大きな部分を占めています。

今年度は上記に加えて、企業・団体がコロナで困窮する人を支援するためにフードドライブを開催し、当法人に寄贈するというものが増えました。食べ物を通した分かち合い、助け合いが広まってい

くことを期待します。

#### ④個人からの寄付

個人の皆様からの食品寄付は、本年度1年間でのべ1024件、重量は21,978kgでした。その内13,810kgはお米で、当法人のお米の重要な供給源（50.5%）となっています。食品パックプロジェクトの際には、何か必要かを問い合わせてください、食品やお米を購入して寄付して下さる方もありました。

#### ⑤企業渉外チーム 食品引取への取り組み

コロナ禍にも関わらず過分のご協力を頂いた企業・法人・個人の皆さまに感謝の1年でした。コロナ感染拡大の時期には、担当の方とお会いしてお話する機会が持てず、渉外活動が制限されることもありました。3度にわたる困窮者支援の食材提供依頼に多くの企業より余剰食品のみならず正規商品をご提供いただくことができ、SDGsへの取り組みが定着してきたことを実感しました。

又、その際商品提供以外にクラウドファンディングに多数のご協力を得ることが出来ました。提供いただいた食品はイベント関連のものが多く、コロナ禍の影響を色濃く感じるものでした。

神戸市長、西宮市長に視察に来ていただいたことや、兵庫県からの支援を通して行政の当法人の活動に対する理解の深まりを感じる事ができ、今後の連携強化に繋がる大きな一歩となりました。

今年度の目標としていました提供企業数100社は早々に達成し183社となりました。困窮者支援を前面にしてターゲットを絞り既支援法人・団体と新規企業へ働きかけたところ、結果は予想以上の成果を得ました。

### (2) 食品の活用

#### ①非営利福祉団体への無償分配

今年度、当法人が食品を提供した福祉施設等、支援を必要とする人を支える非営利団体（以下、受取り団体）は、定期的なもの、一時的なものを含めて144団体でした。経営者の高齢化、経営難などにより施設を閉じるという団体もありましたが、子ども食堂などが、子どもや世帯に無償配布するための食品の提供を求めてこられたケースもあり、昨年度に比べて受取り団体数は増えました。新に合意書を交わした団体は22団体でした。

受取り団体は、当法人が提供する食品により支援を必要とする人たちの食を支え、余った食品を有効活用してフードバンク事業を支えてくださる私たちの大切なパートナーです。当法人の取扱い食品のうち約6割強をこのような非営利福祉団体への無償分配に活用しています。

#### ② 食のセーフティーネット事業

一時的に困窮した市民への食支援として、行政との協働による「食のセーフティーネット」事業を2012年より実施しています。様々な理由で困窮し、食糧不足に陥った世帯に対して、行政の福祉担当部署、社会福祉協議会の地域福祉生活相談担当部署からの支援要請を受けて、当法人が、日持ちのする缶詰、レトルト、米などの食品約1週間分を、その担当部署を通じて無償で提供する取り組みです。

現時点で事業協定を結んで食品を提供している自治体は、尼崎市、高砂市の市と、芦屋市、西宮市、伊丹市、宝塚市、三田市、加東市、猪名川町、神戸市（9区）社協と兵庫県郡部12町を対象地域とする1民間事業所です。神戸市社会福祉協議会と事業協定を結ぶことができ、神戸市9区と連携がとれるようになったのは2020年度の成果といえます。

2020年度（4月～3月）の支援件数は、個人からの直接依頼分も合わせて876件、総支援者数は、1615人でした。一昨年度と比較して、支援件数は210件、総支援者数388人の増加となりました。

年度（4月～3月）	2018年度	2019年度	2020年度
支援件数（件）	603	666	876
支援者数（人）	965	1227	1615

コロナ禍で食支援数は増加しましたが、地域ごとにみると兵庫県郡部12町を対象地域の生活相談事業を請け負う民間事業所からの依頼が倍増しました。（2019年度198件、2020年度399件）その他の市町の社協からの支援要請は、コロナ禍以前と比べてそれほどの増加は見られません。これは、コロナ対応での支援金制度、貸付などで対処されたものと推測します。

行政、社協などの相談窓口を通さず、直接個人からメールや電話で食支援の依頼が入ることが増えました。原則として相談窓口を通じて支援要請を受けることにしていますが、そのような機関にすぐにつながる事が困難な場合も想定し、当法人では、今日明日の食べ物に困る状況であれば、1回限り食品を直接個人に宅配で送ることにしています。2020年度の個人への直接支援は81件でした。（2019年度6件）後半になるにつれて件数の増加がみられます。コロナの影響が広がっていることと、フードバンクの認知度が上がったことによるものと思われます。

### ③ 子ども元気ネットワーク事業

複数のNPO等支援団体連携により貧困母子世帯を支援しようと2015年に「子ども元気ネットワーク」事業を開始しました。女性と子どもを支援する団体が生活相談などを担い、当法人は原則として1年間、毎月1回、米、缶詰、レトルト食品、乾麺、お菓子などの食糧を箱詰めして支援世帯に宅配で発送します。今年度はのべ794世帯、2382人へ食支援を行いました。

この食支援は、子ども達には楽しみ、母親達には安心を与え、結果として親子がとても元気になるという「効果」を生み出します。

現在、連携している団体は、DVシェルター運営団体3団体、母子生活支援施設4団体、子ども食堂運営団体4団体、子育て世帯支援団体1団体、こども財団1団体、ひとり親支援団体1団体の計14団体です。当初と比べて連携団体の数、種類が増え、対象とする世帯やその関わり方も多様になってきたと思います。前半はコロナの影響で開催できませんでしたが、3か月に1度程度、連携団体との情報交換会をもち、支援世帯の状況の共有、各団体の活動の状況や情報交換、対象世帯への効果的な支援方法の検討などを話し合い、互いの活動に生かすことができています。

今年度、対象世帯とする条件の見直しを行いました。すなわち、①支援期間を1年とする。②児童扶養手当満額支給かそれと同等の経済状況の世帯とする。③小学生以上高校生以下の子どもがいる世帯とする。これは、なるべく多くの世帯にこの事業による支援が届けられるように、また、食支援がより有効になる食べ盛りの子どもの食品を届けたいとの思いからです。また、無償の施しではないという矜持を持っていただく意味で配送費用の一部負担として、月250円を世帯に負担していただくことにしました。

2020年は「独立行政法人福祉医療機構」から助成金を受領する事ができたため、宅配配送料を賄う事ができました。今後のこのプロジェクトの継続には、宅配料の確保と子どもたちの食の向上に貢献できるような提供食品の調達が課題です。神戸物産が毎月、子育て世帯に使い勝手が良い食品を余剰品ではなく正規品で提供する取り組みを続けてくださっており、個人からもお米や高級菓子など

を年数回全世帯分のご寄付を継続してくださっていますが、このように私たちと一緒に世帯を支援して下さる企業、個人を多く巻き込んでいきたいと考えています。

#### ④ 個人世帯への直接食支援事業

コロナ禍で困窮する市民が急増している事態に対応するため、従来は行っていなかった個人世帯へ直接食品を届ける事業を実施しました。

##### ・コロナ禍緊急食支援事業 2020年5月～6月

コロナで収入が激減した世帯を対象に、メールか電話で直接の申しこみを受け付け、その日または翌日に米、缶詰、レトルト、α米、乾麺、お菓子など2、3日分を詰めた食品パックを宅配で発送しました。1214世帯(4232人)に約12トンの食品を届けることができました。

迅速な食支援は、給付金などが手元に届いていない状況下で本当に助かったとの声が聞かれました。また、フードバンクの存在を知ってもらうきっかけにもなりました。

初めての試みとしてクラウドファンディングを立ち上げ、送料を調達できたことも大きな成果となりました。

##### ・年末ひとり親世帯支援食品パックプロジェクト 2020年11月～12月

コロナ禍では弱い立場に置かれている人達にそのしわ寄せがより大きくなります。元々非正規労働が多いひとり親の困窮度が増すことが予想されたことから、冬休み、年越しを控えた12月に、ひとり親家庭等医療助成を受給している世帯を対象に申し込みを受け付け、食品パックを宅配で発送するプロジェクトを実施しました。

504世帯(1346人)に約5トンの食品を届けることができました。クリスマスの時期だったので、子どもたちへのクリスマスプレゼントになり、親子共々とても喜ばれました。

##### ・進級・進学応援食品パック

進級・進学の費用で家計が大変な子育て世帯に対して、米を中心にレトルト、缶詰、菓子などを詰め合わせた食品パックを発送しました。

273世帯(928人)に約3トンの食品を届けることができました。出費が重なる時期に助かったとの声をいただきました。特にお米は喜ばれました。

これら3つのプロジェクトを通して、食のセーフティーネットとしてのフードバンクの存在を広く社会に示すことができ、食品ロスの活用についても知っていただくことができました。食べ物を受け取った世帯には、空腹を満たす以上に誰かが自分たちのことを思って助けてくれるという安心感を届けられたと思います。また、そのような親や子どもたちの喜ぶ様子を知ることができ、ボランティアの活動へのモチベーションにつながりました。

#### (3) 子ども食堂支援事業 兵庫こども食堂ネットワーク

感染予防のため、みんなと一緒に食卓を囲むという子ども食堂の開催が困難になりました。しかし、コロナ禍で食が心配な子どもたちは増えています。活動の中で学校や行政との連携が進んだ子ども食堂もあり、支援が必要な子どもたちを把握し、弁当や食材の配布という形でこども食堂を開催するところが増えています。これまで、子ども食堂へは冷凍肉、魚などの素材の提供が望まれましたが、個々へ配布するため日持ちのする、子どもたち一人でも食べられる食品の需要が高まりました。

子ども食堂が地域のパントリーとして広がることに期待しつつ、本来のこども食堂の良さが発揮できる状況になることを望みます。

(兵庫子ども食堂ネットワーク)

2017年2月に34団体の登録で兵庫子ども食堂ネットワークを設立し、当法人は事務局を担ってきました。2021年3月末時点での登録数は70団体です。

コロナ禍で子ども食堂に注目が集まったこともあり、企業、団体からネットワークへの食品、物資の提供などが増え、その受け入れや加入団体への分配などの役割を担う体制づくり、会則の見直しが必要となりました。ネットワークの代表、副代表など主要メンバーと協議し、体制と会則の改変に着手しました。地域グループ登録制を設け、2021年4月から新たな体制でスタートします。事務局の役割も一般社団法人ポノポノプレイスと当法人とで分担して担うことになりました。

#### (4) 広報活動

##### ① ホームページのリニューアル

当法人にアクセスする人の目的に応じて必要な情報がわかりやすいように、また、ホームページを見た方がアクションを起こしやすいように、従来のものを一新しました。

作成にあたっては、当法人のボランティアでもある専門家に業務委託し、1年間をかけて中身や構成を練り上げ、2021年3月22日に公開しました。ホームページは当法人の活動を知る入口となるものとして重要なツールであり、公式フェイスブックとも連動させて、情報を更新していくよう努めていきます。

##### ② イベントの開催

今年度はコロナ感染予防のため当法人主催のイベントは実施しませんでした。以下のイベントに参加いたしました。

###### ・六甲アイランドシティ ファーマーズフェスタへの出展

11月29日(日)六甲アイランドで開催された株式会社ジェイカス主催のイベントに活動紹介のブースを出展し、訪れた親子にお菓子釣りのゲームを楽しんでいただき、活動紹介のチラシを配布しました。

###### ・「いのちとくらしの映画祭&講演会」

3月7日(日) 神戸市教育会館にて、コープ自然派兵庫、コープこうべ、市民デモHYOGO、熟年者ユニオンと当法人が実行委員となり、「公共とは」をテーマに映画「パブリック～図書館の奇蹟」上映と藤原辰史さんの講演会を開催しました。

##### ③ ニュース、報告書の発行

6月に「フードバンク関西ニュース42号」、2021年2月に「フードバンク関西ニュース43号」を発行し、それぞれ賛助会員、支援者・企業・団体、関係各所あてに2200部を発送し、当法人の活動について報告いたしました。

2020年8月に「コロナ禍緊急食支援プロジェクト事業報告書」を発行し、クラウドファンディングにご協力いただいた方々、ご協力いただいた企業・団体にお届けしました。

2021年3月に、「独立行政法人福祉医療機構」の社会福祉振興助成対象事業である「子ども元気ネットワーク」の事業成果報告書を作成しました。これは、助成金事業報告としてだけでなく、当法人の活動を企業などにお伝えする際に活用いたします。

また、2021年3月に活動紹介三つ折りチラシを刷新し、3000部印刷しました。

#### ④ 講演活動、出前授業

今年度1年間に「日本の食品ロスの現状とフードバンク活動について」の6回の講演活動、2つの大学での出前講義、中学校1校で「食品ロスを減らそう」をテーマにグループトークをしました。

#### ⑤ 報道機関などからの取材

- 本年度中に下記の新聞、テレビ局その他団体からの取材を受け、記事にさせていただきました。
- ・読売テレビ報道番組「ten」5月27日 コロナ禍でのフードバンクの活動について取材と放映
  - ・毎日新聞（6月8日）コロナ禍緊急食支援ならびにクラウドファンディングについて
  - ・ビッグイシューVol389（8月10日発行） コロナ禍緊急食支援
  - ・朝日新聞（8月31日）こども食堂関連
  - ・神戸新聞（10月20日）神戸市ガバメントクラウドファンディング紹介
  - ・あまから手帖 2021年3月号 食のSDGs

### IV フードバンク関西の運営費の調達

フードバンク事業は、企業や個人の方から食品の寄贈を受け、支援を必要とする人達に無償分配するので、収益性はありません。従って、当法人の活動運営費は、活動趣旨に賛同して下さる賛助会員年会費、市民や団体からの寄付そして助成金で賄っています。

#### (1) 賛助会員、個人・企業からの支援

本年度は、賛助会員からの年会費、一般の皆様からの寄付が、個人、法人を合わせて延905件でした。クレジットカードでの継続寄付が増加しており、高額寄付もいただくことができました。

コロナ禍で困っている人のために役立ててほしいという声や活動を応援していますというメッセージを真摯に受け止めてまいります。

#### (2) 助成金

本年度は、「独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成」、「赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーン フードバンク活動等応援助成」、「BEKOBEMIRAI PROJECT 特別感謝賞」ならびに「ヴィッセル神戸賞」を受けることができました。

また、神戸市のガバメントクラウドファンディングでの補助金、神戸市フードバンク活動支援助成金の受領が決定しました。

#### (3) クラウドファンディング

コロナ禍緊急支援プロジェクトを実施するにあたり、宅配料が法人会計に大きな負担となることから、クラウドファンディングでの調達を試みました。5月25日から開始し7月31日までに、1,436,000円のご寄付をいただくことができました。はじめてのチャレンジでしたが、多くの方にご支援いただき、また、当法人の活動を広く知っていただく機会になったことは成果となりました。

本年度の皆様からのご支援の明細を表にまとめました。

単位＝円

支援金の種類	合計	個人		法人・団体	
正会員会費	260,000	26件	260,000	0件	0
賛助会員会費	4,799,000	178件	1,763,000	162件	3,036,000

寄付・募金	20,973,725	534 件	16,781,413	31 件	4,192,312
助成金	4,648,898	0 件	0	3 件	4,648,898
合計	30,681,623	738 件	18,804,413	196 件	11,877,210

(4) 主な収支項目と金額 (円)

2020 年度収入		2020 年度支出		
会費 (正会員)	260,000	事業費	食品搬送費	4,145,662
会費 (賛助会員)	4,799,000		交通費	1,163,980
一般寄付	20,973,725		賃借料	2,844,000
助成金	4,648,898		その他の経費	6,869,671
その他の収益	1,089,223	管理費		1,405,497
経常収入合計	31,770,846	経常支出合計		16,428,810

V フードバンク関西がかかえる問題点

(1) 運営費の確保

今年度は幸いにして多くの方からご寄付をいただくことができ、十分な運営費を確保することができました。これを一過性のもので終わらせずに、継続して私たちを支えてくださる賛助会員を増やしていく取り組みを続けていく必要があります。

また、個人、団体からの寄付、助成金による運営費の調達には流動的な面があることから、安定的な資金源が望まれます。神戸市のフードバンク活動支援助成のような継続支援のしくみが拡大されていくことを期待します。

(2) 必要とされる食品の確保

「食のセーフティーネット」「子ども元気ネットワーク」「食品パックプロジェクト」のような個人世帯支援が拡大する中、常温で日持ちがし調理せずに食べられる食品の確保が課題となります。

また、フードバンクが取り扱う食品は栄養的に偏りがちですが、量だけでなく、栄養的にも充実した内容にしていくことが望まれます。そのためには、食品提供企業などに、食品ロス削減のための余剰食品の寄付にとどまらず、地域社会の一員として助け合いの輪の中に入れていただくよう、私たちの活動に理解と協力を求めていく努力をまいります。

(3) 入出庫作業の適正化と効率化

近年、食品取扱量、食品提供企業数、食品譲渡先のいずれも増加しており、ボランティアの手で行っている入出庫管理作業が膨大になっています。現在使っている入出庫管理の入力システムは、ボランティアの手作りのものですが、取り扱う量が膨大になりパンク寸前となっています。また、在庫がシステム上で把握できておらず、適正な在庫管理ができていない現状があります。入庫から在庫管理、出庫までを一元化したシステムを導入することにより、ボランティアの作業の軽減と、トレサビリティなど食品管理のよりいっそうの適正化、よりの確で効率のよい食品の提供を実現していきたいと思えます。

(4) 食品受け入れ量の調整

フードバンク関西は2018年1月に現事務所に移転し、倉庫スペースの拡大と作業効率の向上が実現しました。しかしながら、今年度は一時的に食品が倉庫に収まらず、プレハブ倉庫をレンタルする事態になりました。ただ、在庫食品の量は時期によりばらつきがありますし、企業からの食品提供は予想がつきにくいので、資金を投じて倉庫を拡充することはリスクがあります。在庫管理と在庫状況の把握をしっかり行い、受け入れ可能食品量を考慮した選択的な食品の受取りが必要になります。また、近隣のフードバンクとの食品の行き来や、保管スペースを提供してくださる協力企業を探すことなども検討していきます。

## VI 今後の展望

### (1) フードパントリー事業（困窮する個人および世帯への食支援）の拡大

コロナの影響はしばらく続くことが予想されます。失業や減収により食に事欠く人達の増加が懸念されるなか、それらの人達の命をつなぐフードバンクの役割を果たしていくことが求められます。フードバンク関西は、行政と連携した「食のセーフティーネット」事業、支援団体との連携事業「子ども元気ネットワーク」によりいっそう力を入れていくことに加え、困窮する子育て世帯支援として、学校の長期休暇時期に年2回、申し込みを受け付け宅配で食品を送る「食品パック」プロジェクトの実施や、地域でフードパントリーを開催する団体を支援する取り組みを進めていきます。

### (2) 行政、民間団体等との連携強化

食べ物を送るだけではその方の生活再建まではできません。しかし、食べ物は支援の入り口となります。行政機関や民間の支援団体との連携を強化することによって、食べ物を必要とする人たちにフードバンク関西から食糧を届けることができ、また、食支援から他の生活支援へとつなげることができます。地域で行政や民間団体が網目を張り巡らせることによって、目に見えにくい困窮する人たちをすくいとり、多方面から支えることができます。そのような誰も取り残さない社会の実現に向けて関係各所と手を携え活動を継続していきたいと思えます。

## VII フードバンク関西の概況

- 1 活動開始 2003年4月 法人設立 2004年1月26日
- 2 認定NPO法人の認定  
国税庁からの認定 2007年11月19日 再認定 2009年10月19日  
兵庫県からの認定 2013年12月27日  
神戸市からの認定 2018年12月19日
- 3 主たる事務所 神戸市東灘区深江本町1丁目8-16-101  
電話番号 078-855-7025 fax 番号 078-855-7028  
メールアドレス [info@foodbankkansai.org](mailto:info@foodbankkansai.org)  
ホームページ <https://foodbankkansai.org/>  
Facebook <https://facebook.com/foodbankkansai/>
- 4 役員  
理事長 中島 眞紀  
副理事長 上野 裕司 松尾 粒一  
理事 浅葉 めぐみ 川崎 知浩 西村 秀明 西口 信幸  
丸山 優子 曾我 智史

監事 山岡 明子

5 正会員 (敬称略 アイウエオ順)

秋本 道男	浅葉 めぐみ	芦高 康文
荒井 昌明	井坂 千代子	上野 裕司
大野 貞明	奥野 振一郎	川崎 知浩
貴志 久美子	辛嶋 正	木下 忍
田原 将行	近本 博文	中井 龍司
中島 真紀	西口 信幸	西村 秀明
馬場 一徳	深堀 潤子	松尾 粒一
松本 美佳子	丸山 優子	向 貴美子
山岡 明子	山地 昌子	

(以上26名)